

播磨科学公園都市のあり方検討 学生団体意見交換会 記録

- 日 時：2025年11月26日（水）16時00分～18時00分
- 場 所：光都プラザ cotohana 会議室
- 参加者：兵庫県立大学学生有志スパークル：5名、兵庫県立大学自然研究会：3名
兵庫県企業庁、たつの市、受託事業者（アルパック）

■記録

1. スパークル取組紹介

1) 活動内容

- ・スパークルは、若いエネルギーを持つ兵庫県立大学理学部生と地元住民、研究者が文化的な交流を深め、まちを活性化することを目指している学生団体である。
- ・「光都大作戦」と名付けた自主イベントを、2023年度に8回、2024年度に7回開催した。
- ・イベントを通じて、幅広い年代の人たちが近い距離感でつながれる場づくりに取り組んでいる。
- ・2024年のイベントでは、自然科学研究会、劇団ぼちゃん、吹奏楽団、JAZZ研究会など、多様な団体と連携した。
- ・直近のイベントとして、第21回「光都の自然を詰め込んだリース作りの会」を11月29日（土）に光都プラザで開催予定である。
- ・予告として、ボッチャはあらゆる人が一緒に競い合えるスポーツであり、第23回「光都大作戦 大ボッチャ大会」を2026年1月11日（日）にふれあいスポーツ交流館で開催する予定である。
- ・不要となった教科書や本を必要としている人につなぐことで能登半島地震災害義援金を集めており、日本赤十字社を通じて被災地に届けた。

2) 質疑応答

- ・毎月のイベントはどなたがどのように企画・立案しているのか。
→1年目の経験を参考にし、うまくいかなかった企画は見直しつつ、顧問の先生方と学生と一緒に企画している。
- ・8月に開催された「光都の多様性を楽しむ」イベントで、外国人参加者からどのような魅力や意見があったか。
→「夜遅くでも演奏しても文句を言われぬ」「自然が豊かで穏やかで住みやすい」といった声が多かった。
- ・「もっとこうだったらいいのに」という意見はあったか。

→大学生の立場からは、バスの本数が減ったことや運賃の高騰が課題と感じている。

3) 課題

- ・県民局からの支援金は「同じ団体名・同じテーマ」の場合3年間しか受けられないため、期間が延長されれば活動の幅が広がる。
- ・集客力の強化が必要であり、テクノにいる人だけでなく、テクノ外の人「わざわざ行ってみたい」と思えるような魅力づくりが課題である。
- ・生活インフラが不足しており、車がないと移動が難しい。
- ・買い物や遊びに行く際に「必ずテクノから他の地域に出ないといけない」状況であり、本人もその点が理由の一つでテクノには住まなかった。
- ・大学生としては、24時間営業の店や娯楽施設の充実を望む声がある。星空がきれいなので、サウナ施設ができれば良いと考えている。

2. 自然研究会取組紹介

1) 活動内容

- ・播磨科学公園都市周辺は、県内でも有数の生物の宝庫として知られ、生物多様性の観点から重要な地域である。
- ・カッコウ、アカショウビン、モリアオガエルなどの希少種、兵庫県レッドリスト A ランクのオチフジやハウチャクソウなど多くの絶滅危惧種が確認されている。
- ・活動目的は、域内の四季折々の生物を綿密に調べ、その存在の素晴らしさや自然の豊かさを学生や地域住民と共有することで、豊かな自然を守り、地域の貴重な環境の保全につなげることにある。
- ・これまでの活動として、植物班によるキャンパス周辺の記録をまとめた冊子作成、野鳥班による鳴き声の録音と専門家による特徴抽出、昆虫班による採集した昆虫の標本展示、魚・両生類班による水抜き生物調査会での講師参加などがある。
- ・今年度の計画として、植物・昆虫・鳥などの専門家を招いた調査会、住民参加型の調査・観察会、観察された生き物を分かりやすくまとめた季刊冊子の作成・配布を予定している。
- ・SNSによる情報発信も行う予定だが、希少種の生息場所が特定されないよう細心の注意を払う。

2) 質疑応答

- ・どの班に所属しており、活動の中で何が一番楽しかったか、印象に残っているか。
→野鳥班に所属している。深夜に歩いていた際にフクロウの鳴き声と思われるものを録音し、専門家に確認してフクロウと同定できた経験が特に印象的だった。

○自然研究会の課題

- ・地域交流を兼ねた活動量を増やしたい。例えば地域住民も参加できる春頃の採食会の認知度を高めたい。
- ・自然研究会の活動は一部の学生にしか知られておらず、認知度向上が課題である。
- ・公共施設を会場とした発表等にも取り組みたい。
- ・科学公園都市の自然の良さ（鳥、魚、植物などの多様さ）を地域で広く知ってもらうための情報発信を強化したい。

3. テクノに関する意見交換

1) 意見交換

- ・昼間の人口は多い一方で、定住人口は減少していることが問題であり、学生を大切にすることが重要である。学生が学会で賞を受賞した際に、たつの市広報で紹介するなどすれば、学生も「大切にされている」と感じ、将来の定住につながる可能性が広がるのではないかと。
- ・学生は就職活動時、「ここに住んだまま働く」という発想よりも「どこに引っ越すか」を前提に考えている。働く人との交流や祭りへの参加など、学生が住民として自分を位置付けられる機会があれば、「住むためのまち」として認識されやすい。
- ・普段の買い物、交通、病院の利便性を考えると、テクノを居住地として選びにくい。
- ・テクノ内でお金を落とせる場所が少ないため、授業が終わるとすぐ帰宅したりテクノ外に出たりする生活になっている。ショッピングモールのような施設があれば学生のアルバイト先にもなり、「ここに暮らしても大丈夫だ」と思えるきっかけになる。
- ・個人的には住みやすいまちだが、生活費を稼ぐ場所（アルバイト先）や医療の面では上郡町に頼らざるを得ない。高熱を出した友人がバスもなく上郡町の医療機関に行くしかなかった例があり、風邪でも気軽に受診できる施設が必要である。
- ・大学周辺で遊ぶ娯楽施設はほとんどなく、学生がアルバイトできる場所や地域の子どもたちと触れ合える場があれば良い。
- ・2年生の間、実家から通学していたが、夜遅くに買い物に行きたくても車がないとどうしようもないなど、交通の不便さを強く感じた。
- ・医療の課題は高齢者が主に口にするものだと思っていたため、若い世代から医療の問題が指摘されたことに驚いた。テクノにも医療・研究資源があるため、その近くに住民の診療もできる場を設けられれば、若い人も高齢者もこの地域を「捨てずに」済むのではないかと。
- ・テクノには素晴らしい施設がある一方、人とのつながり、地域とのつながりが希薄であることが、人が離れてしまう大きな要因なのではないかと。住民がSPring-8などの魅力や施設に触れられる機会が身近にあるとよい。
- ・兵庫県立大学は音楽活動が盛んである。このテクノにホールができれば、高い頻度で演奏会を開催でき、集客にもつながる。
- ・意見収集の方法として、大学キャンパスでアンケートに回答した学生にプレゼントや食堂の割引クーポンなどを提供すれば、より多くの学生の意見を集められるのではないかと。

- ・ビール工場（ブルワリー）を併設したビアホールを整備し、学生がアルバイトでき、音楽団体がライブ演奏できる場をつくることで、まちの活性化と学生の働き口の確保、文化活動の振興につながるのではないか。
- ・個々の課題を埋める前に、県がこの都市をどのような姿にしたいのかという大きなビジョンをまず明確にするべきである。そのビジョンを立てる際には、若い学生の意見も汲み取り、ワーキンググループのような枠組みを作りながら進めていくべきではないか。
- ・学生寮のネット環境が不十分（大学がWi-Fiを整備しているが、部屋によってつながり具合が異なる）

2) 質疑応答

- ・1970年レクリエーション都市開発計画が中止になった経緯と理由を知りたい。
→バブル景気の時期に大規模ゴルフ場開発が計画され用地取得が進んでいたが、経済状況の変化により計画通りの整備が難しくなった。その後、確保済みの用地を活かす形で「西播磨ハイテクポリス基本構想」が策定され、播磨科学公園都市の整備につながった。
- ・SPring-8は学生の実験・研究で関わる機会があるのか。
→関わる機会はあるが、一定の学年に達し、安全管理や取り扱いルールをクリアした後になる。
- ・サークル活動は理学部の学生のみか、他キャンパスの学生も参加しているのか。
→スパークルは理学部のメンバーで活動しているが、所属する水奏学団は理学部・工学部・環境人間学部を含む3学部で構成されている。光都大作戦に参加する団体の中には姫路を拠点に活動し、演奏のために光都に来る団体もあり、必ずしも理学部だけで構成されているわけではない。



当日の様子

以上